

(執行委員会一任)  
 (二)理事長 松岡 駒吉 以上一括可決  
 ▲日本労働會館建設委員會は一切の財産を財團法人日本労働會館に寄附すること。  
 可決

▲府縣會議員選舉對策の件  
 從來の方針に従ひ、極力應援すること、適宜の設置に於いては執行委員会一任。  
 午後十一時二十分散會す。

理事出席表 (×出席 △缺席 ○代理)

回数	1	2	3	4	回数	1	2	3	4
小原源一	×	×	△	×	森 謙	△	△	△	△
磯市之助	×	△	△	×	關 一	△	△	△	△
本田邦光	△	×	×	×	日下徳九	△	×	×	×
田中芳太郎	×	×	×	×	和田純之助	△	×	△	×
佐藤信之助	×	×	×	×	山良多一郎	△	△	△	△
齋藤 猛	△	×	×	○	木村萬一郎	△	○	○	△
山下鶴松	×	×	△	×	藤田七之助	△	×	×	×
佐野藤太郎	○	×	△	×	今村 熊吉	△	△	△	△
田中保	△	△	×	×	川畑孝藏	×	×	△	×
中澤忠吉	△	△	△	×	小林淺太郎	×	△	△	×
野口榮治	△	△	△	△	今村 敏	×	×	×	×
安川匡美	△	×	○	×	船井治平	△	△	△	△
仁科周信	×	△	△	×	大川 嘉	△	△	△	△
田島米作	△	○	△	×	横山富夫	△	○	×	×
山崎 耕	×	△	△	△	武田吉治	×	×	△	△
飯島武助	△	△	×	×	高橋龜太郎	△	△	△	×
松本泰治	×	△	△	△	磯山平五郎	○	×	△	×
山田重太郎	△	△	△	×	大川海三郎	△	○	△	△
赤松常平	△	×	×	×	中西安太郎	△	△	△	△
大岩越半	△	△	×	×	大岸 幸男	△	×	△	×
奇崎 芳郎	△	△	×	△	松下熊四郎	△	○	△	×
藤玉井 與助	×	×	△	△	金子市五郎	△	○	△	×
藤本 耕	×	△	△	△	吉澤定雄	△	△	△	△
川田 浩	×	△	△	△	佐野政吉	△	△	△	△
青木 進	×	△	△	△	丹羽三之助	○	△	△	△
小竹 久	×	△	△	△					

團體協約確立運動概況

昭和六年八月末の團體協約現狀は、別表の如く、三十四工場、十組合、二千七百三十二人である。  
 本年度の新成立協約工場は、別表の如く、五工場、四〇一人であつた。又、本年度に於いて、工場閉鎖の爲め解消したる協約工場は二工場九十八人であつた。  
 總體に於て、前年度に比較するに、三工場、二組合、百五十九人を増したのである。  
 團體協約運動が、遅々たる歩みではあるが、兎に角年々健實に前進しつゝあることは、喜びとしなければならぬ。  
 然し乍ら、依然として、小工場に止まるのは、現在の組合勢力が中小工場に多く、且又、大工場は、労働組合否認の態度最も強硬なるに依る。  
 一ヶ年の成績を見るに、大體に於て、極めて良好であつた。經濟恐慌は、團體協約工場にも襲ひ、事業の縮小、工場閉鎖等も行はれたのであつたが、合理化された勞資關係の上に立つて、妥當公正なる解決を見ることが出来た。能代樽丸協會と樽丸工組合との間に、不幸、協定決裂した結果果罷業に入り、數十日を経て解決したのであつたが、其後

再び舊態に復り、組合員の努力に依つて健實なる存在を續けて居る。  
 團體協約を有する組合は、大正十三年には二組合に止まつたが、本年度には十四組合となり、加盟各組合の間に、團體協約思想が、着々浸潤しつゝあることを示すものである。尙、この外、公然の團體協約關係には至らざる迄も、事實上の團體交渉を續けて居る工場は、近來頗る増加し、漸時大工場にも及びつゝあることは、注目すべきところである。  
 これ等の工場が、公式の團體協約を行はざるは、工業俱樂部を始め資本家團體に隠然公然掣肘せらるゝ結果なりと認めらる。  
 (組合の工場管理)  
 不況の結果、組合の工場管理を行ひつゝあるものは、二三數へるのであるが、何れも、五十人前後の小工場で、大體良好なる成績を挙げつゝある。然し乍ら、これは、労働組合の止むを得ざる應急的手段であつて、これに別段、労働組合運動上に於ける意義を認めて居るものではない。